

# 大志を育む



令和4年12月1日  
(教職員向け)  
教育委員会だより  
No. 49

発行：北広島市教育委員会

## 「小中一貫教育全国サミット in 飯塚」大会に参加して

学校教育課 指導主事 比良 彰男

先日、令和4年11月4日～5日の2日間日程で開催された「小中一貫教育全国サミット in 飯塚」大会に参加してきました。昨年度は、北広島市において、新型コロナウイルス感染防止のためにオンライン開催で行われた全国大会でしたが、今年度は、福岡県の飯塚市で、全国から約500名が参集して、全国大会が開催されました。

飯塚市は、施設一体型の小中一貫校4校をはじめ、市内全中学校区で地域と連携した特色ある小中一貫教育の実践に取り組んでいます。今回、大会テーマ『未来を切り拓く資質・能力を育成する小中一貫教育の創造～9か年の連続性のある「学び」「育ち」を追究した教育活動を通して～』のもと、1日目に施設一体型小中一貫校3校の「授業公開・実践報告」、そして2日目に4つの分科会と全体会の公開が行われました。

1日目に、私は飯塚市立小中一貫校幸袋校の授業実践を参観しました。幸袋校は、2小1中の3校が統合し、平成29年に飯塚市2校目の施設一体型小中一貫校として開校した学校です。小学部21クラス中学部8クラスの児童生徒700名ほどの大規模校で、当日は20の授業が公開されました。

幸袋校において、私が最初に注目したのは、授業公開前に公開された「結いの日」です。「結いの日」とは、中学部の生徒が小学部の児童の学習補助をする、異学年交流です。週に一回設定されているのですが、当日は、小学部2年の児童が取り組む「かけ算プリント」に、中学部3年の生徒が分からない点を教えてあげたり、できたプリントのまる付けをしたりする様子が見られました。施設一体校ならではの活動であり、児童生徒の協働により、小学部児童が中学部の姿に目標を持つとともに、中学部生徒は役に立つ喜びを実感することで、自己理解やキャリアプランニング能力の育成につながっていると感じました。



「結いの日」の取組

授業公開では、特に小学部と中学部の交流授業に着目しました。小学部3年生並びに5年生が、総合的な学習の時間に中学部1年の生徒と交流し、アドバイスや評価・改善をってもらう内容でした。3年生では「学校自慢」を、近隣のこども園にわかりやすく伝えるための手立てを中学部生徒にアドバイスをもらい、5年生では「ボランティア活動」を行う上で、中学部生徒から経験を踏まえた改善案を教えてもらう授業でした。交流が活発であり、普段から慣れている感じがうかがえました。

幸袋校の教育目標は、「自立的学習者」の育成であり、9年間の教育活動の柱は「PBL (Project-based Learning) を中心としたキャリア教育」でした。人間関係調整力の育成にとって、「交流授業」や「異学年交流」は非常に有効であり、子どもたちに基礎的・汎用的能力の基礎を培う実践が展開されていました。

2日目の分科会は、第3分科会「キャリア教育」に参加しました。社会的・職業的自立を目指した、系統的なキャリア教育の取組として、広島県府中市と福岡県飯塚市の2地区からの実践発表がありました。

府中市からは「明郷学園」の「小中一貫教育とCSを基盤とした、地域・産業界と協働したキャリア教育の実践」が、また飯塚市からは、「二瀬中学校と伊岐須小学校の隣接型小中一貫教育校」から「発達段階に応じた社会的・職業的自立を目指した系統的なキャリア教育の実践」が発表されました。

最後に、指導助言者の福岡教育大豊嶋教授から、キャリア教育では、児童生徒に学ぶ意義・価値を捉えさせ、学習評価することで自己調整を図るなどのプロジェクト型学習が重要であるとのお話がありました。

今回の全国サミットは、施設一体校の学校の授業参観や多くの実践事例の発表に触れ、教育課程の接続の重要性を再確認するなど、大変有意義なものとなりました。

# 西の里中学校区 2022 年度 小中一貫教育の取り組み

西の里中学校区では、総務部会、13の教科・事務部会、4つの作業部会（教務部会・研修部会・指導部会・総合キャリア部会）を組織し、小中一貫教育の「涵養」にむけた教育活動を推進しています。

## 1. 持続可能な小中合同研修会（学びをつなぐ、人と人をつなぐ）

2020年度の「石教研学校課題研兼広教研中心校発表会」、昨年度の全国サミットが終了し、小中一貫教育について成果と一つの区切りができました。そこで、今後の活動を考えた時、持続的に行うために多少計画変更をいたしました。具体的には合同研修会の回数を5回から3回へ減らし、それに伴う会議の回数も減らすことで、時数確保や業務の効率化・負担軽減を図りました。もちろん、今までの成果を継続するために【全体会】での小中の学力の実態交流、新体カテストの実態分析の交流、【教科・事務部会】の系統表に関する協議、教科指導に課題の交流、【作業部会】の各業務の推進検討等は今まで通り行い、9年間を見通した学習・生徒指導を進めていきます。



また、昨年度までは研究主題を小中でそろえての研修でしたが、今年度は「中学校区研究の方向性（自ら進んで学び、表現する児童生徒の育成）」を統一しつつも主題、副題、研究内容については各校の課題に合わせた設定・取り組みとしています。授業交流については、各校の全校研に合わせ出席可能な職員が参加し、各校で還流する方法で行っています。

## 2. 実践的な乗り入れ授業を目指して（学びをつなぐ）

以前は、年4回の乗り入れ授業を行っていましたが、より実践的な取り組みにするために、数年前から、1度の乗り入れ授業と登校体験を行う計画に変更しました。

乗り入れ授業は1学期に行い、中学校ならではの教科（英語を中心に数学、理科実験など）を児童の実態に合わせて決めています。授業後のアンケートでは、どの子にも好評で、「中学校での授業が楽しになった」と早い時期に中学校進学を意識し、以後の活動で見通しをもつのに有効でした。また、登校体験は3月の公立高校入試日（今年度は3月2日）を予定しています。朝の登校から始まり、複数時間の体験授業を受けます。50分授業、教科担任、教室・教具など実際に近い体験を中学校で受ける意義もありますが、何よりも登校距離が倍以上になる通学路を歩くことで、身も心も中学校へ向けて引き締まることを期待しています。



## 3. 大志学の取り組み概要（大志をつなぐ）

### ○ 発達段階によるつけたい力

形成期 小1～小4	充実期 小5～中1	成熟期 中2～中3
○助け合い仲良く活動する意欲と態度を育てる。人の仕事の意義を知り、進んで役割を果たす態度を育てる。	○自己を理解すると共に、地域に目を向けて、学ぶことや職業の意義や地域の一員としての役割を理解する。	○自己と他者との個性を尊重し、よりよい人間関係づくりに努め、将来の夢を実現するための課題を理解しその克服のために努力する。

### ○ 夢ノートの活用

様々な活動に対する目標や見通しをもたせ、振り返って気づいたことをポートフォリオ的に記録できるよう活用しています。本中学校区では、全市に先駆けて小学1～3年生についても独自の「ゆめノート」を作成し9年間にわたっての変容を記録するようにしています。この取り組みにより、児童にとっては、「①これまでの活動を振り返る。②自分の成長や変容を実感する。③進路変更や将来の決定の参考とする。」等の効果があり、教職員としても「①児童の理解を深める。②系統的な学習を進める上の参考とする。」等の効果を得ています。

